

次期尾道市総合計画基本構想～まちづくりビジョン～(素案)に対する意見募集の実施結果について

【募集期間】 令和8年7月22日(水)～令和8年8月17日(月)

【募集結果】 応募者数4人

【提出方法】 電子メール4人

■いただいたご意見の概要と市の考え方

No.	ご意見の概要	市の考え方
1	18歳高校生の僕の立場だと、学びと遊びの両立ができ、夢を叶えることができそうな町に住みたいと感じます。車を持っていない僕は、通いたい学校が近くにあり、友達と遊べる広場や施設がある場所なら、生活が充実して、自分の夢と向き合えそうな気がします。 18歳以降の立場で考えることは難しいですが、僕が子供の時は、思い切りボールを蹴っても他人の敷地や田んぼに入ってしまう広場が欲しいと思っていました。それと、いろいろな習い事施設も地元であれば良かったなと思います。 車を持っていない未成年や、免許を返納されたご年配の方など、行動範囲を制限されている人も充実した生活が送れるようにその土地に新しい何かをつくったり、公共交通機関の発展や学割などがあればもっといい町になると思います。	中高生世代アンケートや市民ワークショップに参加いただいた学生の皆さまからも同様のご意見をいただいております。こうした若い世代の皆さまの想いを基に、10年後の「めざすまちの姿」を検討してまいりました。 いただきましたご意見を参考にしながら、めざすまちの姿の実現に向けて、尾道に関わるすべての皆さまと一緒にまちづくりを進めてまいります。
2	次期総合計画は、尾道市の今後10年間の方向性を決める極めて重要な計画です。しかし、今回示された基本構想案には、現状の深刻さを直視したうえで、地域を維持するための具体的な戦略を示すという計画の本質的役割が十分に果たされていないと感じています。 尾道市は、全国平均以上のスピードで人口減少が進む自治体です。この現実を直視し、“変える意思”を明確に示す総合計画でなければ、市民の未来を守ることはできません。今回の基本構想案は、その第一歩として不十分であり、抜本的な改善を強く求めます。	基本構想は、将来のまちづくりに向けたビジョンを示すものとして総合計画に位置付けるものでございます。 今後10年間のまちづくりの基本的な方向性を示すものであり、ご意見のありました具体的な施策や事業の方向性については、今後基本計画において整理を進めてまいります。 基本計画の策定において、社会変化に適応したまちづくりを進め、施策を柔軟に見直しながら、めざすまちの姿の実現に向けて必要な施策や取組を見定め、実行してまいります。
3	人口減少・少子化・高齢化の深刻さが計画に反映されていない 尾道市は全国平均以上のスピードで人口減少・少子化・高齢化が進行しています。にもかかわらず、傍聴した第4回審議会を担当課から「将来人口推計は現行計画のまま据え置く」という発言があったことに強い危機感を覚えました。 将来人口推計は、総合計画の根幹です。これを更新しないという判断は、「現状を変える意思がない」と受け取られても仕方ありません。人口構造が激変しているにもかかわらず、10年前の前提をそのまま使う計画は、政策の実効性を著しく損ないます。 ・求める改善(提案) 将来人口推計の全面的な更新 最新の国勢調査・出生率・社会動態を反映した推計を必ず作成すること。	出生数、死亡数、転入・転出などの人口動態の最新の状況を的確に把握し、将来の人口を見通すことは、今後のまちづくりを進めるうえで大変重要であると認識しております。 次期計画策定にあたっては、本市の人口動態の状況を分析し、将来人口推計の考え方について検討しております。 将来人口推計については、最新の国勢調査結果をもとに、国立社会保障・人口問題研究所の推計による仮定値を用いた推計を行う予定としており、令和7年度国勢調査の結果が公表された段階で実施し、その内容は基本計画に反映してまいりたいと考えております。 基本計画においては、まちの状態を客観的に把握できる指標を用い、計画策定後もまちの状態を把握し続けることで、必要な事業を検討してまいります。

No.	ご意見の概要	市の考え方
4	3C(Change・Challenge・Choice)の主体を市民に置き換えたことへの懸念 第4回審議会で、3Cの主体を市から市民に置き換えるという説明がありました。これは一見、市民主体のまちづくりを強調しているように見えますが、実際には「行政が変わる意思を弱め、市民に責任を転嫁している」ように感じられます。総合計画は行政の行動計画であり、まず行政自身が「Change・Challenge・Choice」を実行する姿勢を示すべきです。主体を市民に置き換えることは、行政の責任を曖昧にし、計画の実効性を弱める結果につながります。 ・求める改善(提案) 行政自身が「Change・Challenge・Choice」を実行する姿勢を明確化 主体を市民に置き換えるのではなく、行政が率先して変革する姿勢を示すこと。	「みんなで取り組んでいくうえで大切にしたいこと」については、市民の皆さまに行政の役割や責任をゆだねることを意図したものではなく、市民や地域、事業者、行政など、多様な主体が一体となってまちづくりを進めていくうえで共通にする視点や大切にしたい思いをお示したものです。 なお、基本計画は、基本構想で描いためざすまちの姿の実現に向けて、行政が行動主体となっていくことを計画するものとなっており、行政においては、地域課題を把握し、めざすまちの姿の実現に向けて必要な施策や取組を見定め、実行してまいりたいと考えております。
5	計画の表現が“衣装を着替えただけ”になっている 今回の基本構想案は、言葉のトーンが柔らかく、「つながり」「支え合い」「幸せが続く」など、市民の希望を反映した表現が多く見られます。しかし、内容を精査すると、現行計画の構造や政策体系と大きく変わっていない部分が多いことが分かります。 産業政策の方向性 子育て・教育の枠組み 安心・安全の捉え方 地域コミュニティの扱い これらは、表現が変わっただけで、政策の本質的な転換には至っていません。 このままでは、「衣装を着替えただけで中身はほとんど同じ総合計画」が出来上がってしまいます。 ・求める改善(提案) 地域維持のための具体的戦略を明示 地域別人口推計 維持可能性の評価 公共施設の再編 移動・生活支援 若者還流戦略 など、実効性のある政策体系を示すこと。	現計画の基本構想の都市像は、1つのキャッチフレーズと説明文で設定しておりますが、次期基本構想では、18の市民目線の生活実感として「めざすまちの姿」を描くことで、市民の皆さまと共感する接点を増やしております。そのため、行政分野を軸としながらも、必ずしも行政分野に捉われない「実現したい姿」を描いています。 基本計画では、このめざすまちの姿の実現に向けて、行政の各分野でどのような取組を進めていくのかを部局横断的に検討し、具体的な政策や施策の位置づけによる実効性のある計画を作成してまいります。
6	このままでは、コンサル費も時間も無駄になる 総合計画は、行政・市民・事業者が共通の未来像を共有し、行動を一致させるための最重要ツールです。しかし、将来人口推計を更新しない 行政の主体性を弱める 現行計画と大差ない構造 抽象的な理念に偏り、具体的戦略が弱い という状況では、計画としての実効性が著しく低くなり、コンサル費や審議会の時間が無駄になるだけでなく、尾道市の未来にとって何の役にも立たない計画になってしまいます。 ・求める改善(提案) 現行計画との差分を明確化 「何が変わったのか」を市民に説明できるレベルで、構造・政策・指標の刷新を行うこと。	今回の基本構想は、人口減少や価値観の多様化、社会環境の変化を踏まえ、予測が困難な変化の激しい時代にあっても変わらない将来像としてめざすまちの姿を位置付け、整理しております。 なお、基本構想は今後10年間のまちづくりの基本的な方向性を示すものであり、具体的な施策や事業の方向性については、基本計画において整理を進めております。市民の皆さまとともにめざすまちづくりの方向性が、体系的に整理された計画となるよう策定を進めてまいります。

No.	ご意見の概要	市の考え方
7	◆中高生世代アンケート(令和7年度)について 尾道の最大の課題の一つは間違いなく「尾道を出た若者(特に女性)が戻って来ない」ことだと思います。このアンケートもその文脈で実施されたものだと思います。その意味でこの調査の質が計画の実効性を左右するため大変重要です。 1 問題点 若者の意識や希望を把握する目的で実施されていますが、「なぜ若者が出て行くのか」「どうすれば戻ってくるのか」という仮説的視点が欠けているため、結果が「一般的なニーズの羅列」に留まっている構造で、具体的施策に結び付かない。 例えば「尾道市以外のところに住みたい理由」からは対策が見えてきません。仮説を持たない調査は人気投票の様なもので、尾道以外の地方で調べてもほぼ同じ結果になると思われ、尾道のための処方箋は出てきません。 <例>・中高生はまだ移動経験がないため、回答は抽象的 ・他都市でも同じ結果になる(尾道固有の課題が抽出できない) ・行動意向(戻る／戻らない)の決定要因が測れない ・政策化に必要な因果関係が取れない 2 改善策 仮説を立てるためには「すでに出た層」や「戻る可能性のある層」つまり移動経験層—の 実体験を聞くことが不可欠です。「学びたい学校が無い」「やりたい仕事が無い」「遊ぶ場所が無い」の解像度を上げて構造化する必要があります。そのためには、尾道出身の大学生・Uターン社会人・転出後も関心を持つ層に対する半構造化インタビューを行い、いくつかの仮説を立てることが必要です。 <例>・対象:尾道出身の大学生・若手社会人(20～35名) ・方法:半構造化インタビュー ・目的:離脱要因・帰還要因の抽出 ・成果:アンケート設計の仮説生成 その後、中高生に仮説検証型のアンケートを実施し、具体的な施策に結びつけます。	中高生世代アンケートについては、これから進学や就職などのライフステージを迎える若い世代が考える本市の理想の将来像等を把握することを目的として実施したものであり、今後のまちづくりや施策を検討するうえでの基礎資料になると考えておりますが、若者の回帰・定着を進めるためには、現在の意向を把握するだけでなく、実際の経験や選択に着目し、転出・Uターンに至った背景や要因を把握することも重要であると認識しております。 いただいたご意見については、今後の施策検討の参考とさせていただきます。
8	近年国が急激に移民政策推進しており(国は移民の定義を曖昧にしていますが国際上完全に移民推進してます)、尾道市でも急にたくさん外国の方を見かけるようになりました。 ●変化をしなやかに受けとめる 守るべきものを大切にしながらも、変化する社会の中で一人ひとりが多様な価値観を認め合い、柔軟な考えを持つことを意識し、協力しながらより良いまちづくりにつなげていきましょう。という箇所があります。確かにその通りなのですが、急激な変化は、恐怖です。現状急激な変化に不安しかありません。こういう、意見も多様な価値観の一つです。排除しないで耳を傾けてほしいです。	「変化をしなやかに受けとめる」は、変化する社会の中で一人ひとりが多様な価値観を認め合い柔軟な考え方を持つことを意識し、協力していくことがまちづくりにつながるという思いをお示しております。 こうした思いの中で、急激な変化を恐れる人もいることを認め合いながら、また、これまでの価値観や守りたいものを大切に、協力しながらできることを一つずつ積み重ねることで、みんながめざすまちの姿の実現に向けて取り組んでいきたいと考えております。

No.	ご意見の概要	市の考え方
9	芸術、文化方面に強い尾道市。それを売りにするのは素晴らしいと思います。ただ、盛り上げの中心になってほしい図書館が偏った展示物ばかりでは、文学のまちの図書館を活気づけたいのに、利用者も離れてしまうのではないのでしょうか。 限られた予算は、本当に必要なことにつかっていただきたいです。インフラや学校設備、重要だと思いますが、幼児の子育て真っ最中なので、ボロボロの学校に、ピカピカのハコモノとか許せないです。無駄を省く地方運営を尾道市に求めています。	限られた財源を有効に活用するため、事業の必要性や効果を検証しながら、持続可能な行財政運営に努めてまいります。 いただいたご意見については、今後の施策検討の参考とさせていただきます。
10	総合計画の計画期間初年度にあたる令和9年度早々、市長選挙が行われる予定です。今後10年間のまちづくりの基本的なビジョンは、ここで選ばれたリーダーによって策定されるという考えはないのでしょうか。	総合計画は、市民と行政が共有するまちづくりを進めるための指針となるものです。将来の本市のまちづくりの基本的な考え方をお示しするもので、市長の交代のタイミング等ではなく、ある程度の長期スパンの中で策定するものであると考えております。